

自ら学びが進められる生徒の育成

-学習を調整できる単元デザインと環境の設定を通して-



特別研修員 社会 伊藤 靖浩(中学校教諭)

生徒の実態

- ・与えられた課題には意欲的に取り組める。
- ・学びを自分事として捉える機会が少なく、単元末のまとめが表面的な記述が多かった。

教師の願い

- ・自ら課題意識をもち、学習に取り組んでほしい。
- ・自分で得た知識を使い、課題解決ができる生徒になってほしい。

手立て 1

- #### 自ら学習を調整できる単元デザイン
- ・学習デザインシートの活用
 - ・友達の学習内容を閲覧したり、意見交換を行うことで学びを見直す

手立て 2

- #### 学び方を選択できる環境の設定
- ・調べ方や情報整理の方法をICT、ノート、ワークシートなど複数の選択肢を提示する
 - ・自分に合った学び方を選択できるように個別・協働の学びを保障する

成果

- ・デザインシートを更新し続けることで、「何を調べたのか」「どこまで課題解決に近づいたのか」を把握し、学び方を調整することができた。
- ・どの資料を根拠にしたか、どこが不十分だったのかを友達の学びと比較したことで理解が深まった。
- ・自分の考察を加えた深いまとめへと変化が見られた。

課題

- ・情報整理に負担を感じる生徒も見られたため、資料を限定することや、資料選択の基準を明確に示し、生徒の資料選択を支援する手立てが必要である。
- ・自己調整力をさらに高めてくためには、学びの見直しをより計画的に実施していく必要がある。

単元名:「第3章 日本の諸地域 近畿地方」(第2学年)

[手立て1] 生徒が自ら学習を調整できる単元デザイン

つかむ

学習デザインシート

自分たちで考えた学習課題を、Googleスプレッドシートを活用し、どのように解決していくのか見通しをもたせ、**修正していくことで学びを調整しながら、学習を進めていけるシート**

学習課題

近畿地方では、産業の発展と環境保全をどのように両立しているのだろうか。

[手立て2] 学び方を選択できる環境の設定

いくつかの学習方法を示し、その中から自分に合ったやり方を選べるようにする。個人で学ぶことも友達と協働学習することも自分で選択する



場所



整理の仕方



まとめ方



情報の集め方

生徒Aの学習デザインシート

調査1

自然環境と琵琶湖について

琵琶湖について・京阪神大都市圏(京都・大阪・神戸)では、琵琶湖の水が浄水場で安全な水道水となって、中域に暮らす1700万人!の人々の生活を支えている。そのため、近畿地方全体で琵琶湖の環境保全することを課題にしている。

調査2

近畿地方で発展している産業+前回の続き

明治時代から繊維などの工業が発展。第二次世界大戦後からは阪神工業地帯が中心となり、日本の工業を支えていた。1970年代になると地盤沈下や工場の排煙による大気汚染などの公害が問題になった!!

学びの見直し・再調査

友達の意見から

景観を守るために京都では、お店の建築を他の県のものとは変えている。それは、観光業の取組としてなの?

まとめ 課題解決

まとめ②

つまり.....近畿地方では産業を発展させるときに環境を破壊してしまう恐れがあるが、それを改善していく取組を地域全員で協力していくことで、環境と産業の発展の両立が取れている。

追究する

まとめる過程での学びの見直し(交流を通して)

まとめが長くて、分かりづらいよ。

どうしたら、みんなに、分かりやすく伝わるのかな。



まとめは、必要な情報だけでいいんじゃない。

まとめ 課題解決

まとめ①

琵琶湖と産業の発展は密接に関係しており、例えば、1970年代になると、急速に増えた工場からの排水、家庭の生活排水などが流れたことにより、水道水への影響が問題となった。産業と環境の両立を図るため、水質悪化の原因となる「りん」を含む合成洗剤の使用中止「りん」を含まない粉石鹼の利用をする運動を始め、.....

まとめる

交流を行い、学びを見直すことで、集めた情報だけでなく自分の考えを加えて、まとめを修正することができた

